

製造業安全対策官民協議会 第4回アドバイザーボード

日本鋳業協会の取り組みについて

日本鋳業協会
2021年9月27日

1. はじめに

業界における重篤災害の未然防止の為、2017年に合意された神戸宣言の「4つの経営理念」を活動に取り込むことにより安全対策の強化に取り組んでいる。

2. 取り組み方針

神戸宣言との対応	取り組み
Ⅰ、Ⅱ	協会としての「安全活動基本方針」と「安全活動計画」を作成し活動する
Ⅲ、Ⅳ	災害集計結果(千人率 度数率 強度率)を拡大安全衛生委員会で情報共有し、現地安全情報交換会で報告する
Ⅲ、Ⅳ	重大重篤災害、火災爆発等は協会へ報告し、「拡大安全衛生委員会」で情報共有する

3. 当協会の取組計画について

[神戸宣言 I に対応]

会員各社との情報交換および実態調査等により得られた個社の特徴的な活動事例を、勉強会やディスカッションに活用することにより、業界全体の安全管理の強化・充実と労働災害の未然防止を図る。

活動方針

1. 重篤災害の未然防止
2. 会員各社への安全活動支援

《業界全体への啓蒙》

- ・協会内イベントでの活用検討
- 会員会社から情報を取り入れて、改めて業界内で共有する

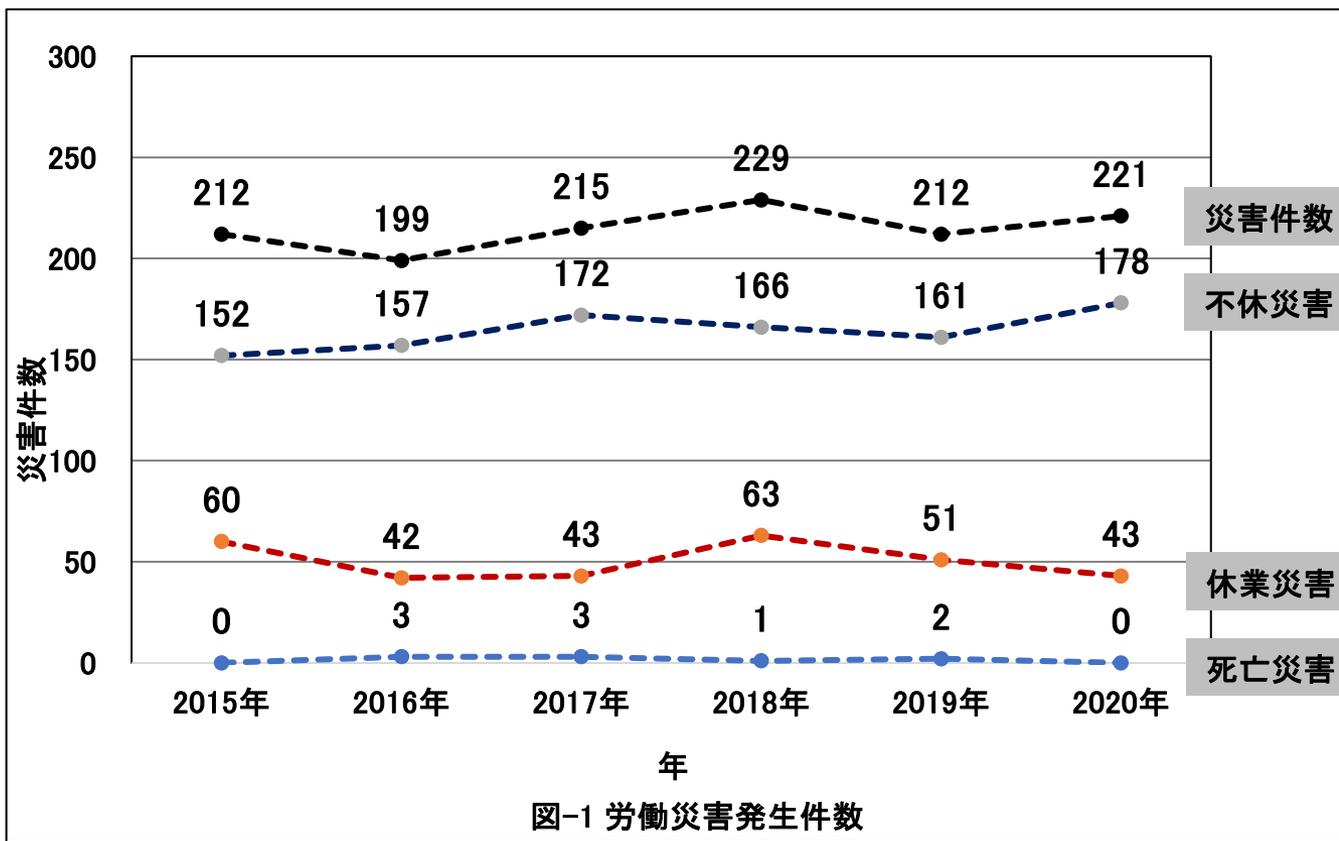
《代表会社間の情報共有》

- ・拡大安全衛生委員会での担当者間の交流勉強会
- 個社取り組みの特徴などについての解説や紹介
- ・官民協議会の成果物の周知および活用についての議論

4. 労働災害発生状況

(1) 労働災害発生件数

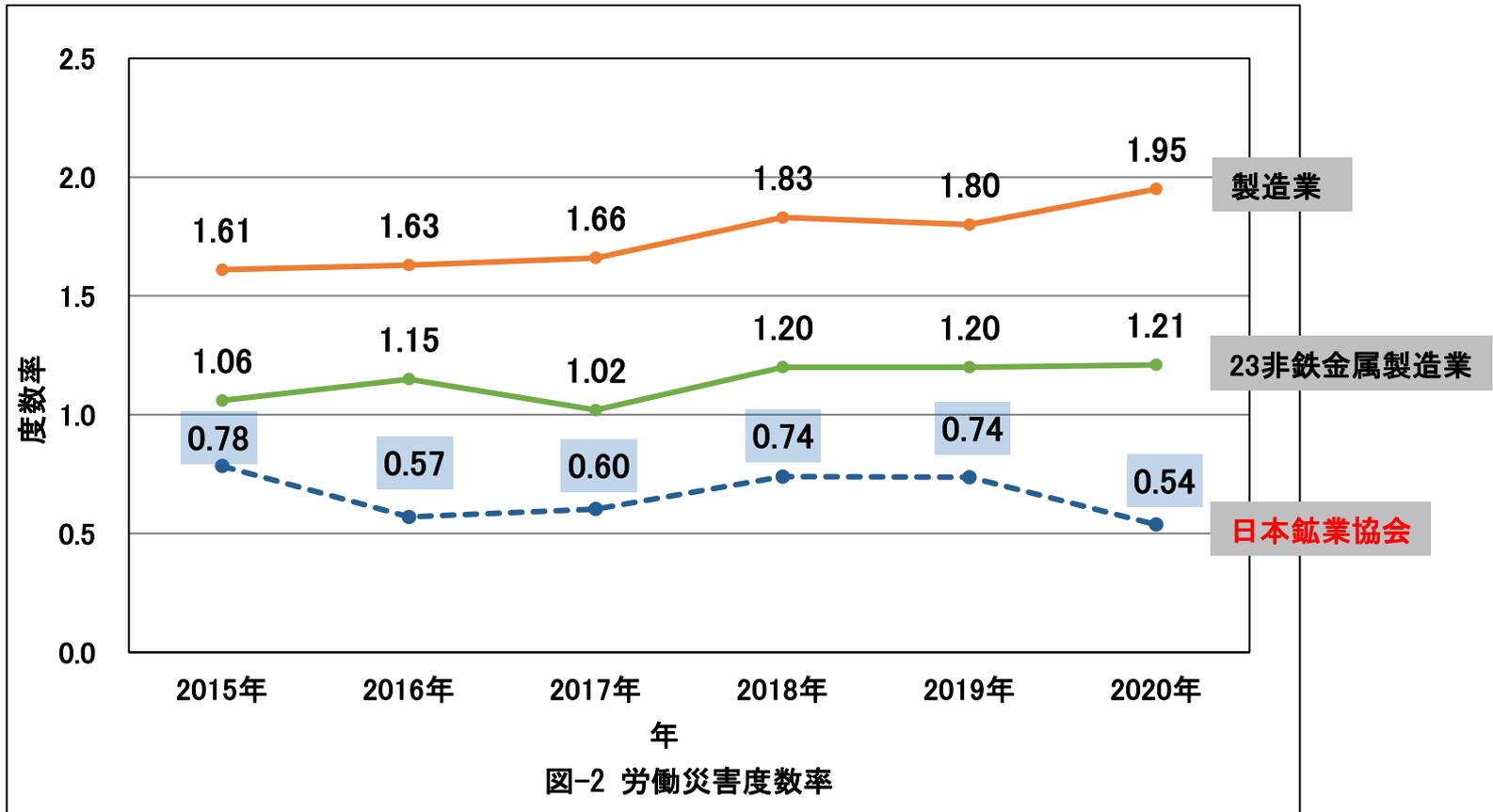
・労働災害発生件数は200件を超えているが 休業災害発生件数は減少している。



4. 労働災害発生状況

(2) 労働災害度数率

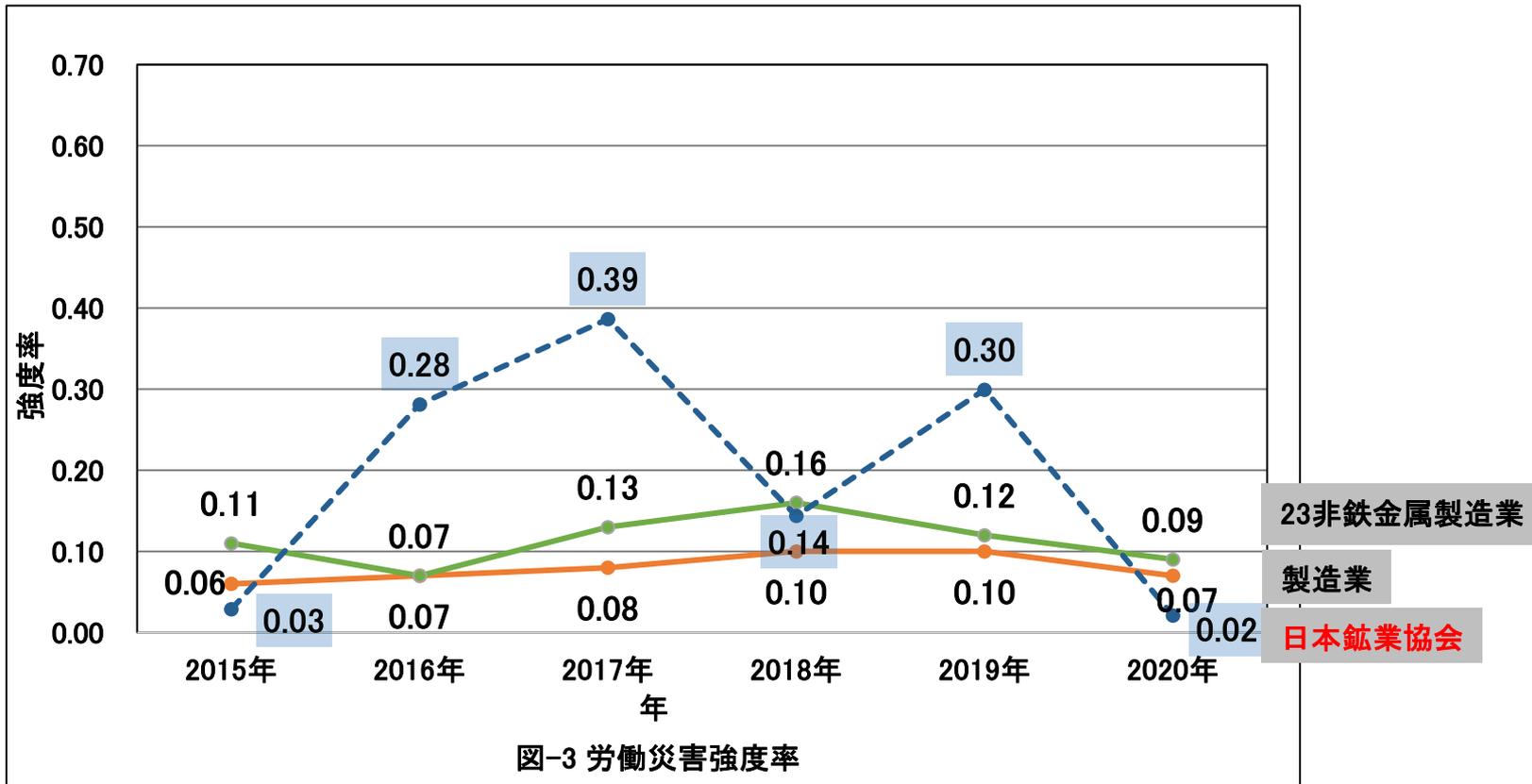
・度数率は製造業全体と業界全体を下回っており、2020年の度数率は前年より下がった。



4. 労働災害発生状況

(3) 労働災害強度率

・2020年の強度率は、製造業と業界全体よりも低く、重篤災害が少なかった。今後も継続できるように努力する。



5. 安全・衛生の活動状況

・災害防止のための情報共有

[神戸宣言Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに対応]

- ・類似災害防止のための災害情報発信
- ・新型コロナウイルス感染症対策の情報発信
- ・法改正等の関連情報発信
- ・会員企業のISO45001への取組状況の調査

・拡大安全衛生委員会(1回/2ヵ月)Web併用

[神戸宣言Ⅲ、Ⅳに対応]

- ・各社の取組の特徴、災害事例、重篤災害事例等の紹介
- ・災害発生状況の実態把握と共有(災害件数、千人率、度数率、強度率集計)
- ・製造業安全対策官民協議会の活動報告と対応

・現地安全情報交換会(1回/年)Web開催

[神戸宣言Ⅲ、Ⅳに対応]

- ・労働災害集計結果の報告(労働災害発生状況と推移の情報共有)
- ・会員3社による安全活動事例の紹介

・環境・安全担当者会議(1回/2年)

[神戸宣言Ⅱに対応]

- ・準備のための運営委員会を3回開催(3月、5月、6月)
- ・特別講演2件(環境1件 安全1件)の企画
- ・会員企業による一般講演7件の企画(投票により2件を協会賞に推薦)

《今後、協会が実施する活動》

[神戸宣言Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに対応]

下期の計画【該当する経営理念】

- ・社長会(毎月)【Ⅰ、Ⅳ】
- ・理事会(毎月)【Ⅰ、Ⅳ】
- ・拡大安全衛生委員会(奇数月)【Ⅲ、Ⅳ】
- ・保安部会(11月)【Ⅲ、Ⅳ】
- ・環境・安全担当者会議(9月8日)【Ⅱ】

次年度以降の課題

- ・講演会、交流会、見学会等の計画実施

5. 安全・衛生の活動状況

2021年度現地安全情報交換会

[開催日:5月21日WEB開催]

各社の安全活動事例の共有等を目的として、保安部会委員各社の事業所持ち回りで、年に1回、安全管理状況の見学ならびに安全に関する情報交換をおこなっている。

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策の為中止としたが、今年度は、現地での見学は中止しWEBによる情報交換をおこなった。

(1)2020年安全成績について

(2)3社の安全全般に関するの発表

①A社の安全活動について

- ・安全成績、災害内容の解析
- ・**転倒災害防止への取組について**

(年齢と労働災害の関係、災害発生状況、災害事例、総点検、体力テスト)

②B社の安全活動について

- ・安全成績、災害内容の解析
- ・安全衛生活動の取組について

(安全巡視活動、小集団安全活動、安全教育、リスクアセスメント、緊急事態訓練)

③C社の安全活動について

- ・安全成績、**災害内容の解析**
- ・災害事例と対策例

(フォークリフト災害、ディスクグラインダー災害、ベルトコンベア災害)

- ・ロックアウトへの取組について

5. 安全・衛生の活動状況

報告事例1 転倒災害防止への取り組み(総点検)

対象

国内事業所

■ 主要通路等

- ・ 日常的に使用する構内通勤路や各事務所、作業場へつながる安全通路
- ・ 食堂やトイレ等、使用頻度の高い施設につながる通路
- ・ その他（各箇所/社において必要と考えられる所）

■ 抽出対象の危険源

- 段差：**50mm以上**（2018年災害事例より）
- 開口部：**120mm以上**（2018年災害事例より）
- 障害物
- その他

「日常的に利用する主要な通路」で多くの危険箇所が抽出された。

総点検

◆ 抽出件数1,462件（うち、ハード対策実施125件）

抽出された箇所についてはハードまたはソフト面での対策を実施し、またその改善状況については環境安全部による事業所での環境安全監査の際に確認をとっている。

さらに以下のような気づきもあった。



「本総点検にあたり、50mm以上の段差を点検したが、やりに進めるにつれむしろ10mmや20mmといった低い段差の方が危険であった。」

報告事例2 高齢者の転倒防止対策

災害内容の解析により
高齢者にはつま先の上がった
安全靴の導入を推進中



6. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 継続して取組んでいる対策例

- ・執務室机(前面、側面)、食堂のテーブルにパーティション設置や2m以上の距離確保
- ・事務所、厚生棟出入口に自動体温測定器設置
- ・濃厚接触者が発生した際、当該従業員の行動範囲について消毒
- ・Web会議の推進
- ・出張内容を精査し、可能な限り事業場間の移動を抑制
- ・懇親会禁止
- ・テレワーク、ローテーション勤務、時差出勤の推進

(2) 追加した対策例

- ・ワクチンの職域接種
- ・3密回避の工夫(マスクを外す場面、車に同乗する場合)

(3) 工場視察の対策例

- ・Webや事前撮影の動画による確認
- ・事前調整(訪問人員の絞り込み、視察時間短縮)
- ・技術部門と環境安全部門の合同視察